



建交労

2018年11月27日 No.11

全日本建設交運一般労働組合 中央本部

2018年秋年末闘争・拡大月間推進ニュース

2019年中央春闘討論集會に85人参加 春闘方針第1次案を5つの分散会で議論

11月24日（土）～25日（日）の日程で、2019年中央春闘討論集會を静岡県伊豆の国市内で開催し、27県本部から85人が参加しました。角田季代子中央執行委員長が開会あいさつで「2019年春闘をたたかうにあたっての問題提起」として、日産・カルロスゴーン氏の逮捕事件や排ガス



偽装データにみられるように大企業はなりふり構わない手法で大もうけし、安倍政権も私物化・民主主義破壊を平然とおこない、改憲や辺野古建設を推し進め、労働者・国民の権利破壊を進めている現状を紹介しました。その一方でトラックでは深刻な人手不足の解消に対して、業界団体がドライバーの労働条件改善に向けた法改正をすすめているなど、追い風の条件が広がっていることを示しました。19春闘では組合員一人ひとりが「給与明細」と労働時間の確認をおこない、賃上げ要求と結び付けた労働条件の改善の闘いに立ち上がろうと呼びかけました。また9条改悪を許すことは、労働組合運動が停滞してしまう、各現場で全国統一3000万人署名を推進しようと呼びかけました。

その後、廣瀬肇書記長が「2019年春闘方針第1次案」を提案し、「愛知学童・立嶋さん、福岡トラック・緒方さん、沖縄ダンプ・東江さん、東海鉄道・安藤さん、女性部・小島さん」が1年間奮闘してきた要求闘争と組織拡大のとりくみについて報告しました。その後5つの分散会・に分かれて、春闘アンケートに向けて職場の状況、春闘に向けた構えなどを交流しました。

翌日（25日）は、各分散会の報告を受け、方針案に対する全体討論をおこない15名が発言しました。森谷副委員長が閉会のあいさつをおこない、最後に角田委員長の団結がんばろうで集會を終えました。